

Title	穂積博士の隠居論を読む（其の四）
Sub Title	
Author	福田, 徳三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.9 (1915. 9) ,p.959(1)- 975(17)
JaLC DOI	10.14991/001.19150901-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150901-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

廣告主へ御注文の節は三田學會誌廣告に依る旨を記附するを望む

京東米穀 取引所仲買

日本橋區鰯艘町二丁目一番地

有松尙龍商店

電話浪花二五四三番

電話浪花二五四四番

電話浪花二五四五番

電話浪花二五四六番

電話浪花二〇八九番

期米賣買確實迅速に御取扱申上

候間御注文奉願候

資本金一千萬圓

日本橋區小網町鎧橋通り

電話浪花二七一、二七〇

豊國銀行

淺草雷門前

淺草

支店

淺草吉野町

吉野町

支店

本郷四丁目

本郷

支店

芝三田通り

三田

支店

神田連雀町

神田

支店

京橋際

京橋

支店

千葉縣銚子

千葉縣

支店

浜松市

浜松

支店

新潟市

新潟

支店

頭取

頭

取

末延道

末

延道

專務取締役

專務

取締役

坂田

坂

田

成實

成

實

總支配人

總

支配人

相談役

相談

役

遠山市郎兵衛

遠山

市郎兵衛

三田學會雑誌 第九卷第九號

論 説

穗積博士の隠居論を讀む（其の四）

福 田 德 三

目 次

九 『グランドヘルシアフト』と隠居制度

九 『グランドヘルシアフト』と隠居制度

今日獨逸農民の間に普及せる隠居の制度は無數の名稱を以て知らる、即ち予の寓目したる所にても Altenteil Abstandsvertrag ; Ausgedinge ; Austrag ; Auszug ; Gutsüber-

第九卷（九五九）論 説 穗積博士の隠居論を讀む

第九號

1

tragung; Gutsübergabe; Gutsübertassung; Gutsabtretung; Leibgedinge; Leibzucht 等の語ありて何れも同一事を指稱せり。斯く名稱の多きは其行はるゝことを既に久しきこと、其普及の度の大なることを證するものと云ふも不可なし。獨逸社會政策學會に於て故エルウェン・ナッセ教授を主任として全國に涉りて調査したる結果を集大成する所の『獨逸農民狀態』 *Bäuerliche Zustände in Deutschland* (1883) 三巻は其普及の狀態を各地方に就て詳細に記述せり。同論叢第二十二冊至二十四冊

バイエルンに就てはフイツク氏の『巴國農民相續制度論』あり、又たブレンタノ先生に『舊新封建制度』(全集第一巻)あり、又た前に引く所『獨逸帝國相續法及土地所有分配篇』三冊も亦豊富なる材料を載せたり。されば吾人は獨逸の隠居制度に就て少くとも其經濟上の方面を考ふるには甚だ安全なる基礎の上に立つものなり。予は隠居論の著者が此一事を殆んど度外視して單純なる隠居起源勞力説を以て甘んずるを憾むこと切ならざるを得ず。而して予の管見を以てすれば、獨逸農民の隠居制度は我邦武士の隠居制度を考ふるに付ても、亦若干取つて參照す可きものあるが如し。予は唯右掲ぐる所の諸書とブレンタノ、ミアスコヴィー兩先生の著書論文

等を見たるに止るものなれば或は甚しき誤謬に陥り居るやも斗られずと雖も、與へられたる材料に對し何等先入の見を挿むことなく反覆熟考するに、獨逸農民の隠居制度は之を經濟上より觀察すれば、武士の其れに於ける如く共に其の Unfreiheit に源を發するものにして、隠居論の著者の所謂優老の意味を含むこと甚だ少しあらず。隠居者は隠居制度による被優遇者にあらず。寧ろ反對に隠居制度は für Ausländer ならず gegen Austräger に設定せられたるものにして、經濟上之れより利益を享くるものは隠居者にあらず。主として隠居者の Grundherr 又は Gutsherr なりしなり。假りに一步を譲りて著者の隠居起源勞力説を取るとするも、労力に堪へざるもの退隱せしむるによりて最大の利益を享くるものは農民田收穫の大部分を貢として納るゝ領主なり。領主は老衰無能の農夫を退け壯年有爲の後繼者をしてまで行はれしめたりしなり。要言すれば隠居制度を起じたる事情は Unfreiheit

にして其起り得る經濟上の組織なGrundherrschaft又はGutsherrsehaft而して之を必要とする經濟上の理由は納稅力の維持是なりしなり。其間宗教の感化も優老の情緒も之を見出すの餘地を存せんが如し。アカデベキ一氏故に曰く

Das Hauptmotiv für den vor der Gutsherrschaft begünstigten Abschluss der Gutsübertragungsverträge in bäuerlichen Kreisen bestand früher in dem Interesse der Gutsherrschaft an der

Leistungsfähigkeit des Bauern.

前掲書第11編
百六十3頁

而して予を以て見るに我邦武士の隠居制度に就ても亦同様の觀察を經濟上より下し得可が如し。即ち武士の階級に隠居の行はるゝ事情は(家族維持、家督の承継は第一次的若くは無關係にして)主従關係の嚴重ならし。是れにして而して經濟上の理由は武士のPrästationsfähigkeitを維持することなりしにはあらざるか。

Wir kennen im Mittelalter zweierlei Arten von Unfreiheit; die des Lehnsträgers und die des hörigen Bauern. Auch durch die Uebernahme eines Lehns wurde der Belehrte der Mann des Lehnsherrn. Er unterschied sich von den Hörgen nur durch die Natur der zu leistenden

Dienste; wo dieser knechtische, leistete jener ritterliche Dienste. 『昭領法と土地所有』(柏林千八百九十五年第21頁)

歐洲殊に獨逸に於ては武士も農民も共に完全なる自由人格の主體に非ず領主に從屬する所によりて社會上經濟上の存在を保ち得るに過るず而して武士も農民との異る所は武士は ritterliche Dienste を農民は knechtische Dienste を其々領主に奉獻すること之れのみを經濟上の意味に於ていへば隠居制度は財産維持の一つの方法にして一定の財産——主として不動産——が或は知行或は Bauerngut として常に一定の状態を維持し得んが爲めに之を老衰者無能力者の管理に委ねることを爲さず有爲有能の壯年者の手に置く所の一つ方法たり。否必ずしも其人の有無能を問はずとも少くとも不分割的に維持するの必要は生前讓渡によりて充たさるものなり。予が爾く考ふる所以は獨逸固有の相續法により且つ諸子均分法行はるゝ所にありては隠居の制は主として單に老衰者に代ゆるに少壯者を以てする必要に基くに反し Naturalteilung の行はれる所にては所有地の不分割相續を出来る丈け確實ならしむるが爲め隠居の事多く行はるゝに基く。アスコヴスキー氏說て曰く

Das Hauptmotiv..... besteht gegenwärtig in der Ruhebedürftigkeit der sieh der schweren bäuerlichen Arbeit nicht mehr gewachsen fühlenden Eltern. Dieses Motiv ist zugleich heutzutage dort das einzige, wo die Gutsübergabe sich zugleich ausnahmsweise mit einer Verteilung des Bauernguts unter mehrere Kinder verbindet. Dagegen trat zu diesem Motiv in Ländern, in denen das gemeine oder ein demselben nachgebildetes Intestaterbrect gilt, aber gleichwohl eine Naturalteilung des Guts unter mehrere Erben nicht stattfindet, gewöhnlich noch ein anderes hinzu; nämlich der Wunsch, bereits bei Lebzeiten die ungeteilte Erhaltung des Guts in der Familie sicher zu stellen. Ja dieses Motiv führt bisweilen sogar allein schon zur Uebergabe des Guts.

前掲同上頁

氏は又た隠居制度の起源を総じて次の如く云。

Altentestsverträge kommen schon im Mittelalter vor. Sie scheinen aus dem Gutsuntertänigkeitsverhältnis und dem Bestreben des Gutsherrn: die Bauernhöfe "prästationsfähig" zu erhalten, erwachsen zu sein..... Die ausschließliche Rücksicht auf das Gediehen des Bauernhofs, das ja die Ausspannung der vollen Kraft eines leistungsfähigen Mannes voraussetzt, führte

dann auch unter freien Besitzverhältnissen zu einem ähnlichen Resultat. 『ノラッハ辞典第11版第1巻第四百十頁

予は『氏の此二ヶ條の解説を其儘に受け納れんと欲するものなり。即ち穂積、博士の勞力説は今日の現在に就て而して寧ろ除外例たる土地分割(諸子均分、又は其他、遺言、相續による)の行はるゝ場合に就て隠居制度の持続起源に非ず)せらるゝ所以を説明するには甚だ有力なりと雖も抑も獨逸の農民間に隠居の制度起り而して其制度が主として不分割を原則とする農民田・Bauengutに就て普及したる所以は之によりて説明せられず。反対に領主の利益の爲めにある不動財産の不分割的貢租力の維持と云ふことが最も有力に隠居制度の發生を促し而して之を普及せしめ、今日に至りても不分割譲渡の實を擧ぐるが爲めに此隠居制度は存續するなり。換言すれば隠居の制度は Bauer 黟人の爲めに非や Bauernhof の爲めに必要とせられたるなり。ハレハルタハ氏曰く

Die Verschuldung des übernehmenden Erben infolge des Erbganges entstand damals nicht bloss aus seinen Zahlungsverpflichtungen an seine Mitterben, sondern noch mehr aus denen an

seinen Grundherrn, und diese Zahlungsverpflichtungen waren die Ursachen weiterer noch heute bestehender Eigentümlichkeiten der bäuerlichen Erbfolge. 〔新封建制度〕^{ナウフ}八百九頁

隠居制度は此の Eigentümlichkeit の 1 ならずして他の 1 は相續者をして可成財産一動産一を有する妻を迎へる所領主が干渉したるに及ばぬ。氏曰く

.....damals wie heute für die Auswahl des übernehmenden Erben insonderheit der Gesichtspunkt massgebend war, welches Kind den Miterben die grösste Abfindung zu bieten vermöge.

Die weitere Folge war, dass derjenige oder diejenige, der oder die auf die Uebernahme des Hofes hoffte, vor allem darauf bedacht war, eine reiche Partie zu heiraten.....

Daraus erklärt es sich ferner, wenn in einem der Berichte der Erbrechtsenquête von 1894 es als alte Sitte des bayrischen Bauers bezeichnet wird, dass er heirate ohne Ausehung der Person, lediglich mit Rücksicht auf die Grösse des Heisatguts. Wer nämlich das grösste Gut erheiratete, war nicht nur im stand wie heute, seinen Miterben die grösste Abfindung zu zahlen, sondern auch den mannigfachen Landenrechtsprüchen des Grundherrn, von denen er bedroht war, am besten zu genügen. Der Grundherr und seine Beamten suchten daher auf jede weise zu fördern, dass

der Gutsübernehmer reich heirate 同上頁

領主も其役人等は全力を盡して其領内の農民にして父の田地を相續するものには富める婦人も結婚するのを奨励したるは『ラウデミウム』を多く上納せしめんが爲めなり。

ロットトマー侯は其役人に訓示して曰く『予が臣民は甚だ賢く結婚を成す、即ち彼等は Schönheit, Jugend, Tugend を目的とせしめて唯だ金錢を目的として結婚す。是れ國に對し子に對し子の書記に對し否予の諸役員に對し甚だ有利なるべなり。金錢を有する老婦人を娶るのは其妻彼に先ちて死する」と多かれ故再婚の機會多く從て予に上納する『ラウデミウム』の度數多し。若く夫老たる妻と配しては子を産む數少し從て abfinden するを要する兄弟少く譯にして、上納に事欠かず(大意を探る) 同上頁

而して此の如く reiche Heirat を爲し得るのな自ら土地を有するものなられる可からず。然るに父の存生中土地を相續するに能はれるものは此の希はしき結婚は行はれず。乃ち隠居の制ありて其事を可能ならしむるなり。是れ獨逸農民隠

居の制は子が結婚し得る爲めにも甚た必要をせらるゝ所になり。此事は法律書にし恒此く前後の關係を明かに隠居の制は毫も優老の意を含まざるゝとは領主は隠居料の多めを好まず屢々之に干涉制限を加へたるに徴して知る可し即ちブレンタノ先生曰く

Allein so geneigt der Grundherr war, reiche Heiraten seiner Grundhöfen zu fördern, so ungern sah er, wenn den Austrägern entsprechende Austräge zugestiehert und den weichenden Erben ihre vollen Anteile hinaus gezahlt wurden. Die grundherrlichen Beamten werden daran angewiesen, Uebergaben, in denen entsprechende Austräge ausbedungen wurden, nicht zu gestatten, da eine deratige Beschwerung des Guts den Interessen des Grundherrn abträglich sei; da der grundherrliche Beamte den Uebergabsvertrag für den Bauern abfasste, war es ihm leicht, dieser Anweisung zu genügen; wir lesen schon damals von Zwistigkeiten zwischen Austrägern und Uebernehmern genau so wie heute. 四百三十一頁

かくして茲に(1)の結果生ずる隠居料の甚だ少くある(1)兄弟分割動産の甚だ少くある而して兩者共に grundherrliche Verfassung より起るなり否シャンハの説によ

れば Fick, Die bürgerliche Erbfolge. 長子相續の風俗の普及するに至れるも亦同一の起源に基く也然る其次第は末子相續に比すれば長子相續は相續の機會を多くし從て『ラウデ・ウム』上納の機會亦多めによる。ブレンタノ先生は auch das Interesse des Grundherrn habe dazu geführt, das Majorat vor dem Minorat zu begünstigen と云へり。之を要するにブレンタノ氏が『當時の相續制度は今日の相續制度と毫も異なるなく決して家族的の精神 Faruiliensim によりて起りしにあらず』に領主の利益を本位とし領主制度の必要に基かれて起りしものなり。向ふ四百三十一頁に云ひしもの全く當を得たりと言はざる可からず。而して隠居制度は此相續制度の Correlat なり。此相續制度と關聯して考察せざれば獨逸農民隠居の經濟上の性質は到底之を解明するに由なきなり。

抑も獨逸に於ける田地の相續制度は「子相續」を固有の制とするや諸子均分。一但し女子は除くこと多し。これを固有の制とするやは學者の説必ずしも一致せず。嘗てラット・ギーク先生とブレンタノ先生とは此問題に就て激しく論争せられたり。ブレンタノ氏は主としてバイエルン國に於ける實際狀態の研究に基きて諸子均分が固有の獨逸相續制度なりと主張し。ギーク氏は其論を駁して「子相續」が本來固有の

制度なりしも羅馬法の承繼以後漸く諸子分割の事起れりと答へたり。予は今此問題に容喙する資格を寸毫も有せず、唯だ安全に信じ得る事は「子相續殊に Anerbenrecht」は封建制度の必要に尤も能く合したること是なり。此意味に於て Anerbenrecht は隠居制度と同一の根源より生じたりと考ふるの妥當なるを覺ゆ。子相續が獨逸固有の相續法なりと云ふの意は決して Anerbenrecht 其ものゝ意なる可からず。何となれば古代に於ける經濟單位は個人にあらずして家なり農民田は家の財産なり家の分割せざる限り家産も亦分割せず一體として承繼せらる。家長は家の代表者として之を管理するのみ決して家産を其 Personalische Habe とするにあらず。此意味に於ては分割相續無しとのギーアケ先生の説は動かす可からず。而も之を以て直ちに封建時代の Majorat; Minorat と同じ意味の一子相續とす可きにあらず。封建時代に於ては家産の不分割は人爲的に强行せられたりと雖も家屬共產體 Hausgemeinschaft の意味に於ける家は最早存せず存するものも漸くにして崩壊しつゝあり。されば相續者は家屬共產體に於ける家長の地位に立つものにあらず全體に代り全體を代表する管理者として相續するにあらず。主として領主に對する義務の負擔

者として其義務を荷ふ所の田地を專屬的に個人的に承繼するなり。是れ即ち Anerbe の Anerbe たる所以なり。故に詳しく述べば Uebernahme des Guts durch einen Erben は Anerbenfolge にあらず。アーベンタノ先生 Anerbenrecht を定義して曰く *des Recht, das einem bestimmten Kinde einen klagbaren Auspruch auf alleinige uebernahme des bauerlichen Anwesens gibt.* 前掲書四百四十九頁と予は更に之を釋いて云はん。兄弟を疏外して一人の子のみが田地に關する一切の權利義務を承繼すること是なりと。此意味に於ける一人相續、法(假りに惣領法と名く)は決して家族制度維持の必要に基くにあらず。經濟上より云へば耕地單位の縮少を防ぐこと——所有單位は當時に於てまた經營單位たりじことを思はざる可からず——而して領主より云へば農民の納稅力を維持する。この必要より起りしなり。若し家屬共產體が依然存在せしらんには如し。人爲の制度は寸毫も必要ならず。從つて發生の餘地なき譯なり。家が社會上經濟上分解し、諸子各獨立の家計を立つること一般となりしが爲めに特に斯くの如き人爲の制度を以て封建領主の不便とする所の分割丈けは之を防止したるなり。耕地單位の分解は必ずしも所有單位の分割と同意義ならざる場合には農民の立場よりし

ては毫も惣領法を要せず。バイエルン國の現狀は最も有力に此理を證明すバイエルンには嚴密の意味に於ける Anerbenrecht は存せず而も耕地單位の分割は其存する所よりも決して多からざるなり。乃ち知る可し、惣領法は必竟するに封建領主が其課稅物體の現狀維持の利益を眼目とするものなるを從て惣領法と隠居制度とは同一根源より出で同一の作用を盡くす不可離因縁を有するものなり。而して隠居制度能く行はるゝ處、惣領法は必要ならず。惣領法行はるゝ所、隠居制度は寧ろ長物視せらるゝことは復た多言を要せず。惣領法の行はれて隠居制度のまた存する所元より甚だ多し、而も此場合は穂積博士の勞力説が主として主張せられ得き場合にして、隠居制度本來の存在の理由は之なきなり。其然る所以は別に解説を要せざる可しと雖も讀者の諒解を容易ならしめんが爲め一言蛇足を添ふ可し。惣領法によりて或る法定の相續者定りあり父の死後 ab intestato に田地は不分割分として其相續者の手に承継せらる可しこと明なれば、課稅客體維持の目的は既に達せられるものにして、父の生前に於て別に隠居を強ゆるの必要なし。之に反し惣領法存せざるときはバイエルンに於ける如く事實上 Uebernahme durch einen Erben 行

はる可しとするも weichende Geschwister に對する Abfindung 支拂の必要上其 Anwesen は或は分割せられ、或は一部分賣却せらるゝなきを保せず、況んや此習慣なき所に於て殊に諸子分割——殊に又均分——の地方にては其 Anwesen は全く舊態を止めざるに至る可し。是れ領主の甚だ不利とする所なり。乃ち生前讓渡によりて其分割せられざるを確保す可く父に隠居を爲さしめ隠居料契約を領主の監督——否多くは其役人の手によりて——の下に作成せしめて以て課稅客體の分散を防ぐの必要起るなり。故にミアスコヴィツキー氏曰く

Je mehr das Anerbenrecht vor dem allgemeinen Erbrecht ins Weichen kommt, desto grössere Bedeutung erlangen die Gutsübertragungsverträge 前掲書第六百六十五頁

と。此理は之を英國と對照するによりて更らに一層明瞭となる可し。英國に於ては由來農民田に關しては惣領法一般に行はる、故に獨逸に斯くまで普及したる隠居の制度は英國農民間に毫も之を見ざるなり。英國の小農——自作農——の滅亡は、主として其惣領法の作用にして自由貿易の結果にあらざることは所謂農政學者を除くの外は一様に認承する所なり。若し英國にして獨逸及佛國の如く隠居制度

を以て惣領法に代へたりしならば今日の如き極端なる土地兼併は行はれずして済みたるならん同じく封建領主の必要を充たす爲め課せられたる制度ながら隠居の制度は惣領法に比すれば弊害遙かに少し其然る所以は隠居の制度は惣領法に比すれば經濟上の實際に遙かに適すればなり同じく獨逸にても惣領法の行はるゝ所は隠居の制普及すること其行はれる所に比すれば遙かに少し惣領法と隠居制と並び行はるゝ地方は左の如し

Mecklenburg-Schwerin; Schleswig-Holstein; Hannover; Oldenburg; Waldeck; Altenburg; Schwarwald;

惣領法行はれず隠居制度の普く行はるゝ地方は左の如し

Königreich Sachsen (一八四七年の調査によれば男隠居者一萬七千七百三十一人女隠居者一萬七千六百七十四人合計四萬四千七百四十七人あり

Thüringische Staaten; Schwarzburg-Sondershausen; Reuss jüngerer Linie; Sachsen-Meiningen; Sachsen-Coburg; Provinz Sachsen; Westphalen; Münsterlande; Königreich Bayern, (Oberbayern, Niederbayern, Oberpfalz, Oberfranken, Mittelfranken, Unterfranken); Königreich Württemberg

瑞西(カントンツューリッヒ)

(Oberschwaben); Hessische Odenwalde; Nassau; Sickingen; Provinz Brandenburg; Altmark (Osternburg); Schlesien; Ostpreussen; Lüthauen; Masuren; Westpreussen; Provinz Posen. (△) 勉
す) 奥太利の或地方

以上略説する所を以て獨逸農民の隠居制度は其起源を『グレンントヘルシアフト』に發し之を召起したる必要は主として領主の利益を保護するにあり而して惣領法ありて領主の利益の既に保護せられる所隠居の制は行はるゝと少く然る所は穂積博士説の勞力維持が殆んど唯一の原因にして而して如此場合に於ては英國を極端なる例としてよし其程ならずとも農民の利益は著しく害せられたるの實あることを粗ば明白にし得たりと信ず。